

【参考】指標一覧(分野別計画②関係)

分野	施策	指標名	出典	基準値		目標値		目標値設定の考え方 ※目標値をどのような考え方で設定したか説明してください。
				数値	時点	R12	R17	
3 教育・文化・スポーツ	3-1 生きる力を育む教育の推進	埼玉県学力・学習状況調査における学力を伸ばした児童生徒の割合	埼玉県学力・学習状況調査	65.2	R6	67.5	70	過去の状況からも数値の急増は困難であるため、着実に数値目標を伸ばしていけるように設定した。
		自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査	84.3	R6	85	87.5	過去の状況からも数値の急増は困難であるため、着実に数値目標を伸ばしていけるように設定した。
		1週間の総運動時間60分以上の児童生徒の割合	全国体力・運動能力、運動習慣等調査	小：84.6 中：85.0	R6	小：87.5 中：87.5	小：90.0 中：90.0	これまでの指標を一新したところで、現状値から着実に数値目標を伸ばしていけるように設定した。
	3-2 教育環境の整備・充実	川越市教育委員会が主催する研修会へ参加した教職員の年間人数	川越市主催教職員研修参加者数年度取りまとめ報告	5,064	R6	5,500	6,000	現状を踏まえ、数値が急増することは困難であると考え、改善の幅をゆるやかに捉え、少しずつ向上していけるように設定した。
		特別教室空調設備整備率		42.26	R6	100	100	第4次計画では施策目的が「安全・安心で豊かな教育環境をつくること」であったため、「安全・安心な教育環境の整備」という観点から設定したと推察するが、第5次の案では施策目的が「子ども達が安心して、質の高い教育を受けられるまちにします」と変わっているため、指標としては大規模改造工事進捗率ではなく、「特別教室空調設備整備率」の方が適切である。 特別教室の空調整備を進めることで、熱中症対策として「安心」できる教育環境となり、加えて快適な環境を整えることで、学習意欲の向上により「質の高い」教育を受けられる環境整備の目的に、より近いと考えられる。
	3-3 生涯学習活動の推進	1年の間に生涯学習に取り組んだ市民の割合	文化芸術及び生涯学習に関する意識調査	61.3	R6	62.5	65	過去の調査ではほぼ横ばい（H25 61.2、R元 60.9、R6 61.3）であるため、徐々に改善できるような数値目標を設定した。
	3-4 文化・スポーツ活動の推進	文化活動を年1回以上行う市民の割合	市民意識調査	34.9	R6	37.5	40	R3調査では27.3、R6調査では34.9と増加傾向ではあるが、R3はコロナ禍の影響が大きかったことを考慮し、これを踏まえた数値目標とする。 ※H30以前の調査では月1回以上として整理していたが、R3以降は年1回以上として整理している。
		1回30分以上のスポーツや運動を週2日以上行う市民の割合	市民意識調査	32.2%	R6	36.0%	40.0%	スポーツ施策の目的の第一は、スポーツにより市民の健康が保たれることにある。つまり、スポーツ（又は運動）を習慣的に行う市民の割合の増加が施策の成果を端的に示すものである。 厚生労働省の定義する「運動習慣者」とは、①1回30分以上の運動を、②週2回以上実施し、③1年以上持続している者を指す。本市の既存の調査において、最も近い内容で、かつ、継続的に行われているのが、市民意識調査における「あなたは、1回30分以上のスポーツや運動をどの程度していますか。」との設問である。厚生労働省の目標とする運動習慣者の割合は、令和14年度に40%であり、厳密な意味での定義は異なるものの、これを参考として設定した。 5年で約4%ずつの増加を想定し、10年後に40%を目指すものとする。
	3-5 文化財の保存・活用	文化財保存活用支援団体の指定数		0	R6	2	4	川越市文化財保存活用地域計画の認定後、初めての取組みであり、事業進捗を図りながら制度の周知と理解に一定期間を要することから、着実に目標を達成できる数値を設定した。
		文化財や歴史遺産を保存活用する活動（お祭りなどの伝統行事、博物館・公民館の講座等も含む）に参加してみたいと思う市民の割合	文化芸術及び生涯学習に関する意識調査	30.7（%）	R6	32（%）	34（%）	R17までにH26調査の33.9%を超えられるように設定

分野	施策	指標名	出典	基準値		目標値		目標値設定の考え方 ※目標値をどのような考え方で設定したか説明してください。
				数値	時点	R12	R17	
5	地域産業の活性化と商工業の振興	市内総生産額	埼玉県市町村民経済計算	14,651	R3	16,000	18,000	経済の実態をとらえることができる総合的な指標 年2%の増（前回も同程度の目標で達成）
		企業立地支援事業所数（累計）	産業振興課調べ	10	R6	20	30	これまでは、年間で0.7件を認定するペースであったが、令和7年度から既存企業の敷地内増設も奨励金の対象としたため年間2件の認定件数を見込んだ
		創業件数	産業振興課調べ	68	R6	80	90	創業支援に係る体制が整い、件数が増加する見込み 年3%程度の増
	就労の支援と労働環境の改善	川越しごと支援センターでの紹介が就職につながった割合（就職件数/紹介件数）	雇用支援課調べ	17.9	R6	18.4	18.9	第5次は基準年の令和6年度が過去最高値であり、伸び率については来所者数が減少傾向であることと、就職困難者の来所が多くなっていることから5年毎に0.5%の上昇としたいという考えにより設定。
		キャリア&ライフサポーター共同宣言企業数（累計）		45	R6	50	60	働きやすい職場環境を整備する必要性は今後増加していくと思われます。しかし、現在、この共同宣言を行うことによる企業側のメリットがほとんどないことから、これから改善していくことにより緩やかに毎年1事業所増加させたいという考えにより設定。
	農業の振興	市内農産物直売所販売額	農政課調べ	8.0	R5	10.5	11.0	本市農産物の消費拡大、農業者の所得向上など、地産地消を中心とした農業振興の状況を図れる指標であるため、総合計画の指標として適していると考えられる。現総合計画の指標でもあり、目標値の継続性も保たれる。
		農業を身近に感じる人の割合	市民意識調査	63.8	R6	72	75	農業を身近に感じる人の割合は、市民の農業に対する関心、農業とのふれあい、「農のある生活」に向けた取組の進捗を測る成果指標として適していると考えられる。
	観光の振興	平均観光消費額	川越市観光アンケート調査報告書	7,698	R6	9,800	12,500	令和6年度の数値を基準値とし、毎年度5%の増を目標とする。

分野	施策	指標名	出典	基準値		目標値		目標値設定の考え方 ※目標値をどのような考え方で設定したか説明してください。	
				数値	時点	R12	R17		
6	環境	6-1 環境活動の推進	環境問題に関心がある市民の割合	市民環境意識調査	77.1	R6	78.5	80	埼玉県、さいたま市、県内及び関東の中核市、近隣市町の関心度の平均が79.61%であるため、その数値を上回る80%とした。
		6-2 地球温暖化対策の推進	市域における温室効果ガスの排出量 (千t-CO2)		1,567	R3	1,119	833	第三次川越市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）、国の地球温暖化対策計画（2035年60%削減）に基づき設定。 ※各年度の排出量を把握するための統計データの公表時期により、3年遅れでの集計となる。
			地球温暖化対策に取り組んでいる市民の割合	市民意識調査	43.3%	R6	55%	65%	第15回川越市市民意識調査報告書では、「地球温暖化対策は必要であり、自分のできることに取り組んでいる」という回答が43.3%であったのに対し、「地球温暖化対策は必要だが、何をしたら良いかわからない」との回答が46%であった。今後、「何をしたら良いかわからない」という回答が「取り組んでいる」との回答に変わるよう地球温暖化対策を啓発する必要があると考え、「何をしたら良いかわからない」の半数を「取り組んでいる」の回答に上乗せした65%を目標とした。
		6-3 循環型社会の推進	一人1日あたりのごみ排出量		777	R5	750	730	第五次総合計画における3R（リデュース、リユース、リサイクル）の取り組みの推進によるごみ排出量の減少を踏まえて目標値を設定した。
			リサイクル率		21.9	R5	30	35	第四次川越市総合計画において、左記目標値を設定し、3R（リデュース、リユース、リサイクル）の取り組みを推進してきたが、未だ未達成のため同じ目標値を設定した。
		6-4 自然共生の推進	法令等の指定を受けた緑地面積	（仮称）第四次川越市環境基本計画、第二次川越市緑の基本計画の指標化を予定	3,099.2ha	R5	3,000ha	3,000ha	法令等の指定により、減少傾向にある樹林地や農地等のの保全を図っていくことが重要であることから、目標値に設定。 ※内訳…首都圏近郊緑地保全区域（512.9）、ふるさとの緑の景観地（48.0）、市民の森（4.0）、保存樹林（36.8）、農用地区域（2,369.0）、生産緑地地区（128.5）
			生物多様性の認知度	川越市の環境に関するアンケート調査 （仮称）第四次川越市環境基本計画、第二次川越市緑の基本計画の指標化を予定	59.60%	R6	67%	75%	基準値はR6年度実施の（仮称）第四次川越市環境基本計画、第二次川越市緑の基本計画改定の際の川越市の環境に関するアンケート調査結果において「名前も内容も知っている」、「名前は知っているが、内容はわからない」と回答した人の割合。R9年度以降は川越市市民意識調査に項目追加することとし、埼玉県生物多様性保全戦略の数値目標と同じ75%以上を目指すこととし、目標値に設定。 $75 - 59.6 = 15.4$ （10年後の伸び率） $15.4 \div 2 = 7.7$ （5年後の伸び率） $7.7 + 59.6 = 67.3 \approx 67$
		6-5 生活環境の保全	大気汚染に係る環境基準達成状況	環境対策課調査結果	82.3	R6	100	100	大気汚染常時監視測定局で常時監視している項目のうち、環境基準に適合している項目の割合
			水質汚濁に係る環境基準達成状況	環境対策課調査結果	88.9	R6	100	100	市内4河川9地点で測定しているBODについて、環境基準に適合している地点の割合